令和６年知事年頭挨拶

「未来志向で新時代を切り拓く」

　明けましておめでとうございます。

　民生委員・児童委員の皆様には、健やかに令和６年の新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

　また、高齢者の見守りをはじめ、子育てや介護の悩みを抱えている方、生活にお困りの方への支援など地域福祉を推進していただいている皆様の御尽力に対し、心から感謝申し上げます。

　元日に発生した「令和六年能登半島地震」でお亡くなりになられた方々に心からお悔やみ申し上げるとともに、被災者の皆様にお見舞い申し上げます。

　一刻も早く、被災地域の皆様の日常が取り戻せるよう、本県としても必要な支援をしてまいりたいと考えております。

　本年は、経済の正常化にとどめることなく、人口減少・超少子高齢社会の到来と、激甚化・頻発化する災害、危機への対応という、埼玉県が直面する二つの歴史的な課題に敢然と立ち向かい、持続的な発展を確かなものとする年にしなければなりません。

　これらの歴史的課題に立ち向かうためには、１０年後、２０年後を見据えた未来志向の施策展開が必要です。

　まず、一つ目の人口減少・超少子高齢社会への対応として、社会全体の生産性を向上させることで持続的成長を成し遂げるため、ＤＸを更に推進し新たな価値やサービスを創出するほか、業務プロセスを変革させ不断の行財政改革を推進してまいります。

　また、職住が近接した環境の整備とともに、地域での高齢者や子供たちの見守りを可能にする「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」を強力に推進し、できるだけ早期に全市町村に御参加いただくことを目指します。

　二つ目の様々な危機への対応として、関係機関の連携に主眼を置き様々なシナリオ作成や図上訓練を繰り返す「埼玉版ＦＥＭＡ」をより一層充実させ、県民の安心安全を確かなものとしてまいります。

　他方で、エネルギー・物価高騰対策については、引き続き支援の手を緩めることなく取り組みつつ、経済と環境の両立による持続的な発展のため、サーキュラーエコノミーとネイチャーポジティブの推進を更に強化してまいります。

　さらには、子供への医療費助成など、社会の宝である子供への支援強化とともに、あらゆる人が活躍できる社会づくりを進めてまいります。

　さて、映画「翔んで埼玉」の続編の公開に続き、今年も、渋沢栄一翁がデザインされた新一万円札が発行される予定であるなど、本県に注目が集まる今こそ、県内外に埼玉の魅力を発信するチャンスです。

　今年の干支「辰（たつ）」のように、埼玉県にとって大きな成長の年となるよう、皆様と共に「ワンチーム埼玉」で県政に取り組んでまいります。

（934字）